

令和5(2023)年8月吉日

ピアメディエーション学会 第7回大会のご案内

★大会テーマ★

『対話の力』～時代が要請するピアメディエーション!～

一般社団法人ピアメディエーション学会 会長 水野修次郎

「対話の力」は、21世紀に求められています。対話は対立よりは協働することで推進できます。対話の基本は、対立する双方が解決者となり、解決に何ができるかを提言することから始まります。例えば、鷺田清一先生の主催で2006年に第5回目の「臨床と対話」シンポジウムで実施された際に、私（水野）は津田先生にお会いしました。その後、茨田高等学校でのPMクラブの創立や、教員研修やメディエーション授業などで津田先生と、ほぼ毎年お会いしました。最近では、津田先生が東京に出張される際に、品川や東京駅でお会いしたことを思い出します。

同報告書の「メディエーションの夢を語り合おう！」（49-67ページ）で津田先生が熱く夢を語っていました。津田先生は、その時の夢をほとんどすべて実現されました。昨年日本カウンセリング学会でのシンポジウムでは、「社会貢献としてのピアメディエーション」を私、津田先生、新目先生と開催しました。

津田先生の始めたことは、これからの生命を得て、発展するでしょう。今年の第7回大会ではそのことを実証できると確信しています。それだけではなくて、新しい構想や生きる力を得て、対話する力が強く大きくなっていることを実感するでしょう。それが、せめてもの後進としての私たちができる津田先生への御恩への返答でしょう。

日時：令和5(2023)年9月17日(日) 10時～17時

会場：四天王寺大学 あべのハルカスサテライトキャンパス

〒545-6023 大阪市阿倍野区阿倍野筋1-1-43 あべのハルカス 23階

形式：ハイブリッド方式（対面とオンライン）

参加費：学会員：無料

一般参加者：2,000円

スケジュール

09:30 開場

10:00 開会・挨拶

10:10 追悼談 社 義宣元事務局長（動画再生）

10:40 基調講演 水野 修次郎会長・新目 真紀先生

11:30 研究発表・質疑応答 濱田 陽子先生

12:20 昼休み休憩

13:20 実践報告Ⅰ・質疑応答 池田 真茶先生

14:00 実践報告Ⅱ・質疑応答 小松 宏先生

14:30 フリーディスカッション「学校や地域のPMの定着や役割」についてなど

15:00 休憩

15:10 実践報告Ⅲ・質疑応答 山口 権治先生

15:50 実践報告Ⅳ・質疑応答 株式会社ティグレ 和泉 恵氏

16:30 フリーディスカッション「津田先生の追悼」「職場のPMについて」など

16:55 閉会の挨拶

※時間は多少前後することがあります。ご了解ください。

ピアメディエーション学会 第7回大会 『対話の力』～時代が要請するピアメディエーション!～

★追悼談★

「NPO/ADR の夢を追い求めて＝津田尚廣弁護士と共に歩んだ 20 年を振り返る＝」

特定非営利活動法人シヴィル・プロネット関西事務局長

ピアメディエーション学会前事務局長 社 義宣

2001 年 NPO 法人シヴィル・プロネット関西の創立時から NPO による「対話型 ADR」の普及・啓発を目指して、津田弁護士と共に歩んできた軌跡を振り返りたいと思います。

弁護士でありながら、メディエーションによる「対話型 ADR」を志向した理由は？なぜピアメディエーションを必要としたのか？創り出そうとした社会システムは？etc、氏の問題意識と実践内容をご紹介しつつ、氏の残された功績について考え、追悼の辞としたいと思います。

(1) 基調講演：『対話によるエンゲージメント向上』

一般社団法人ライフデザインコンサルティング研究所所長、

臨床心理士、公認心理師、1 級キャリアコンサルティング技能士

教育学博士、ピアメディエーション学会会長 水野 修次郎

教育工学博士 職業能力開発総合大学校 教授 新目 真紀

コミュニティ（会社を含む）の中核価値が必ずしも共有されていません。21 世紀は、共有する価値（黄金律）が消滅しているといっても過言ではありません。新しい黄金律（対話でつくる中核価値）を形成する必要があります。隣の人が何をしてほしいかわかるだろうか？ 「人に迷惑をかけてはいけない」「迷惑をかけても自分のしたいことをしたい」など、社会のルールが不透明です。

例えば、共創と自分らしさの共生関係を見てみましょう。かつては、日本はチーム活動が世界一に活発でした。現在の日本は、チームよりも個人の活躍が目立ちます。会社でも同じことです。自分らしくあると共に創造するベクトルの中間に生まれるのが、チームワークであり、いたわりの行動であり、思いやりでしょう。それを共生関係といいます。かつては、アフリカサイとオックスペッカー（うしつつき）という鳥は共生関係でした。ところが、現地で農薬を使った結果、鳥の数が減少しました。その結果、アフリカサイは全滅の危機に瀕しています。アフリカサイは、目と耳があまり機能していないので、鳥のサインによって救われていたのです。

今回の講演では、対話を進めることで会社へのエンゲージメントが向上するという点を説明します。そして、対話のスキルを明確にして、組織コミットメント（働きやすい職場）、個人の自発性・役割的行動、高いパフォーマンスが実現することを論理的に説明します。

(2) 研究発表：『メディエーションにおける感情とニーズ』

岡山大学法学部 准教授 濱田 陽子

人が感情を抱くことは自然なことであり、話合いの場においてもそれは同様である。『ワークブック「対話」のためのコミュニケーション』では、メディエーターは当事者の感情を受けとめ、感情により不明瞭になった当事者のメッセージを明確化することの重要性が述べられる。しかしながら、当事者が感情を抱くことは肯定的に受けとめられるものの、感情自体は当事者の理性的な主張を阻害するものとして否定的に捉えられていないだろうか。対話に感情が伴うことが不可避であるならば、対話による紛争解決を目指すメディエーションでは、感情をより積極的に取り扱う方法を模索すべきではないだろうか。

こうした疑問に基づき、対話の場における感情的要素の割合を高め、紛争解決に活用する一つの方法として、NVC（非暴力コミュニケーション）の活用を提案する。

(3)実践報告Ⅰ：『ピアメディエーション勉強会』～8年の取組みを振り返って～
シヴィル・プロネット関西 PM推進プロジェクトチームリーダー
学会認定ピアメディエーター、英風高等学校 講師 池田真茶

ピアメディエーション勉強会は、茨田高校ピアメディエーションクラブの部員たち数人が発した「認定試験の練習の為に学校以外で活動をしたい」「卒業してからも皆でワイワイと学びたい」という想いを受け、NPO 法人シヴィル・プロネット関西に青年部という位置づけを作り、若者たちの学びの場として2015年にスタートしました。

同じテーブルに着けば、老若男女問わず誰でもが対等であることを基本にし、様々な意見や情報交換が行われます。多種多様な方々に参画していただくことで学校現場だけでなく、家族間、地域へと広くピアメディエーションの取組みを紹介していきたいと思うようになってきました。

「より多くの方が、気負うことなくピアメディエーションについて興味関心を示し、共に学ぶ環境を作り上げる」3+4=7 見て知って納得！を目指します。

(4)実践報告Ⅱ：『高槻市におけるピアメディエーションの取組み』

高槻市立第一中学校 教諭 小松 宏

高槻市において、2016年頃から如是（によぜ）中学校にて取組みを開始し、ここ数年は、第一中学校にて仲間の先生方と活動を行ってきました。

授業に取り入れてみると、生徒たちは臆することなく「トラブル解決」に向けて話し合いのサポートをしていきます。生徒だけでなく、教員の先生方にも知って欲しいと考え、様々な研修会で伝えてきました。コロナの中においても、オンラインでピアメディエーション研修を導入するなど、広める努力はしてきましたが、なかなか定着には至っていないのが現状です。それでも、ピアメディエーションに興味を持った先生方が他校にちらほら出て来たようなので、今後は、協力体制を上手に取りながら、進めていこうと考えます。

個々の力だけでは、なかなか進みません。教職員研修にどのように取り入れてもらえるのか？これが、一番の課題となっています。

(5)実践報告Ⅲ：「いじめ防止のピアメディエーション 一校内研修の取組み」

第一学院高等学校 顧問 公認心理師

ピアメディエーション学会 理事 山口権治

R3年度のいじめ認知件数は、61,531件で過去最多です。いじめの被害者は、当然ながら深刻な影響を受けます。ある調査によれば、自己肯定感や社会的能力の低下が見られました。一方、いじめの加害者も負の影響を受けています。別の調査によれば、小学生の時にいじめの加害者となった者は、中高生の時期にたやすく暴力をふるうようになる傾向が見られました。また、低年齢の時期（調査では8歳時）にいじめの加害者となった者は、そうでない者に比べて30歳頃までに犯罪に手を染めてしまう割合がかなり高くなるほか、大学を卒業して定職に就く割合も低くなっていました。見過ごされがちなのが傍観者への影響です。ある調査によれば、傍観者はいじめを止められなかったことに対して無力感や罪悪感を持った結果、自己肯定感が低下し、鬱的傾向を持つに至る場合もあることが指摘されています。それらの問題が大人になっても影を落とし、社会性の低下をもたらすというのです。こうした点からも、いじめを起させないという未然防止の取組みは重要です。

ピアメディエーションを校内研修を通じて先生方に指導することでいじめを未然に防止する取組みを行いました。そのあらましを紹介します。

(6)実践報告Ⅳ：『職場におけるピアメディエーション』

～リーダーに求められるコミュニケーション力～

株式会社ティグレ 執行役員 和泉 恵

2018年、ティグレグループでは、管理職のコミュニケーションスキル向上を課題として掲げ、2023年4月に急逝された津田尚廣弁護士の指導を受け、従業員有志による「ピアメディエーションクラブ」を創設し、約1年間、業務時間外において、第一期生10名がピアメディエーションに関する研鑽に励んだ。

第一期生の活動成果としては、ティグレの業務経験談を基に、トレーニングで使用するメディアエーションロールプレイのシナリオを作成することができたことにある。また、2019年7月、全管理職を対象者にメディアエーションロールプレイを体験する研修を実施し、そのシナリオを活用することができた。その後、第二期生数名にバトンタッチするも、途中からコロナ禍となり、なかなか思うような活動が出来なかったが2021年6月迄活動を続けた。

受講者は、ピアメディエーションを学ぶ事を通じて、コミュニケーションスキル向上の意義を実感し、コロナ禍でのコミュニケーションの取り方や、弊社の新卒若手従業員の育成においてピアメディエーション技法を活用することに、将来的な有効性と持続性を見いだした。

このような経緯を踏まえ、採用3年未満の従業員を対象としたメンター制度導入と併せて、リーダー層を対象にピアメディエーションをステップアップ研修として位置づけ「ティグレピアメディエーションプログラム(TPMP)」の開発へ進むこととなった。

2022年5月からスタートしたメンター制度に続き、2023年6月より、正式なコミュニケーション研修としてTPMP第一期がスタートしている。

そこで本発表では、ピアメディエーションクラブから参加している有志のメンバーや現在のプログラム受講者を対象に、習得したピアメディエーションのスキルをどのように活用することが出来ているかをアンケート調査し、その結果を報告する。

各種 申込みフォーム一覧

【第7回大会 申込みフォーム】

第7回大会申込の皆様へ

学会員：無料

一般参加：2,000円（参加ごとに2,000円をお振込みください）

新規入会：7,000円（入会金2,000円＋年会費5,000円（申込日～R6.7.31））

※新規入会の方は、大会・研究会の参加費は無料となります。



<https://ws.formzu.net/dist/S850475929/>

※お振込みは、開催3日前までにお済ませいただきますようお願いいたします。

【更新申込みフォーム】

更新の皆様へ

年会費更新料：5,000円（令和5年度：R5.8.1～R6.7.31）

<https://ws.formzu.net/dist/S42974996/>



※前年度までの会費が未納の方は5,000円×年数を合わせてお振込み願います。

（未納の有無で不安な方は、事務局へ直接お問合せください。）

お手数ですが、ご協力よろしくようお願いいたします。

【新規入会申込みフォーム】

ピアメディエーション学会へ新規入会ご希望の皆様へ

こちらから入会手続きをお願いいたします。

※ピアメディエーション学会（令和5年度：申込日～R6.7.31）

入会金：2,000円

年会費：5,000円

手続きが完了した時点で大会・研究会の参加費は無料となります。



<https://ws.formzu.net/dist/S641574026/>

【ご発表・紀要への投稿応募フォーム】

令和5年度「研究会」における発表内容

第3号「紀要」への投稿を募集しています。

日々の成果を是非、ご発表ください。

<https://ws.formzu.net/fgen/S204228180/>



【お問い合わせ先】

ピアメディエーション学会

事務局長 中村光男（芦屋大学）

TEL 090-1595-6206

メール jimu@peermediation.info